

「飛翔ができるまで」

24生 上野 裕介

さて、事務棟にしれっと置いてあるこの冊子ですが、実際、どうやって作られているのか知っている人は少ないのではないかと思います。というわけで今回は、私もまだ全てを経験したわけではないのですが、『飛翔ができるまで』と題して、飛翔がどのように作られていくのかについて、取材を中心に綴っていきこうと思います。

① 企画・立案・担当決め

編集委員が集まって話し合い、その号でどんな特集を組むか、また、他の企画についてはどうするかを考えます。その後、研究室紹介やOB・OG紹介、特集などの担当者を決めます。

② 取材する人決め・アポ取り

取材する人を決め、メールでコンタクトを取り、取材日を決めます。

③ 取材

研究室やOB・OGさんであれば、職場近辺まで、実際に取材に行きます。この時、ICレコーダーで取材内容を録音します。

④ 文字起こし

録音したものを、何度も何度も止めたり戻したりしながら聞き、話の内容をワード等でそのまま文字にします。

⑤ 原稿作成

文字起こしを元に、原稿を作成します。

⑥ 文章校正

原稿を作成した編集委員ではない別の編集委員に、誤字・脱字から、意味が分かりにくい部分や、文法におかしなところが無いかまでチェックしてもらいます。今号では、文章校正のほとんどを、原田さんにやってもらいました。この場を借りてお礼申し上げます。

⑦ 原稿確認・校正

出来上がった原稿を取材した人に送り、意味が変わっている点や気になる点などが無いか確認・校正してもらいます。

⑧ レイアウト作成

確認が終わった原稿を実際にレイアウトします。

⑨ 全体統括

表紙・裏表紙もつけ、内容を載せる順番を決め、それに伴ってページ番号を振る等します。

⑩ 初稿提出→飛翔完成まで

初稿提出↓印刷したものを順番に並べる↓校正↓第二稿提出↓冊子化↓校正↓最終稿提出↓飛翔完成

このように、多くの過程があり、飛翔が完成します。また、今回は取材をメインに取り上げましたが、他にも表紙や特集などがあつ

たり、事務の方とも連携を取ったりしていかなければなりません。そんな、多くの人たちの協力で完成しているこの冊子を少しでも気に留めていただければ幸いです。また、編集委員希望者も大募集中ですので、気になった方は気兼ねなく、お近くの編集委員または事務の方まで連絡下さい！

「チョコレートバラ」

24 生 江 永 如

バレンタインデーと言えば、チョコであったり、バラであったりと思われるでしょう。

そこで、今年のバレンタインデープレゼントは特別なものにしようかなと思いました。そして、この写真に写っている、チョコで作ったバラを作りました。材料は簡単ですよ。チョコ、バター、および水あめでできますよ。皆さん、よかったら作ってみてください。友達にあげたり、恋人に贈ったりするのに最高の選択だと思います。

PS.こんなにきれいなチョコ薔薇でも、最後は私の口に入りました。結果としては、私は太りました(笑)。



「部活がいいよね。」

24 生 岡 添 り え

大学には、どこにそんなエネルギーがあるの？と驚くような凄じいことをしている人がたくさんいる。ある先輩はオーストラリアを自転車で縦断するといって、今日(二月某日)出発しました。

こんな風に自分のやりたいことを思いっきりしてみたい。でもなかなか行動を起こすのは難しい。だって家でゴロゴロしてる方が楽だし……。

そんな家大好きな私を無理やりにでも外に連れて行ってくれるのが、部活の存在だなと思います。あ、私が入っているのはサイクリング部です。

昨年の夏は、自転車で福井石川の海岸線沿いや琵琶湖の周りを旅しました。先輩の影響を受けて、STARTプログラムで台湾にも行きました。充実した夏だったなあ。平日の授業の後でも、滝を見に行ったり蛍を見に行ったりと、なんだかんだと出かけています。こんなにアクティブな生活、一人だったらやりたくてもできなかっただろうな。

人から刺激をもらえて、動き出すきっかけをくれて、やりたいことの実現を後押ししてくれる。どこの部、どこのサークルでもそれは同じだと思います。

ということ、一年生みなさん。興味がある部活やサークルがあれば、とりあえず見学してほしいです。見学すればご飯も食べさせてもらえます(笑)。

そして旅に興味のある方。ぜひサイクリング部へ！！

「飛翔な日々を書くよ」と言ったのはいいものの、何を書こうか……。

一、二時間パソコンに向かひて、心に浮かぶよしなしごとを、そこはかとなく書かむと思へど、心に浮かぶことは、かつ消えかつ結びて、久しく留まりたることなし。

困ること。考えの浮かばざること。浮かびたる考えも「なんか違う」と思ひ、なかなか定まらざる。

——日本三大随筆を、適当にいじって（いじり方が全然足りていませんが）合体させてみました。古典文学は何が言いたいのかさっぱり分からないという方もいらつしやると思いますが、有名な作品のワンフレーズをちよつと使ってみるのも面白いかもしれません。

次ほどの作品をどういじろうか、などと考えつつ、今回の『枕徒然記』はおしまいにします。思いついたことを書いては消す、というのを繰り返して、困っている中で書いたら、こんな文章になつてしまいました。無理やりくつつけた感はありませんが、そこはご愛嬌ということにしてください。最後まで読んでくださった方、ありがとうございます！